

2 只貝線が走るまちと周辺のまちの歴史

「古事記」にも会津が登場

「会津」のはじまり

日本で一番古い実際に存在する歴史書である「古事記」には、東北地方で唯一、会津での物語が登場します。

「古事記」には、3～4世紀頃に東日本を治めるために送り出された2人の将軍、「建沼河別命」と、「大毘古命」が、現在の会津の地で出会い、出会った地点が「水辺」だったことから「相津（あいづ）」と名付けられたとつづられています。

「津」は水辺を意味する文字なんだよ

これが現在の「会津」の地名の語源とされています。

仏教文化の時代

会津地方は、山々に囲まれた場所ですが、日本海側と太平洋側からの文化が出会う場所として、また東北地方への入口として栄えていたため、仏教文化が入ってくるのも早いものでした。平安時代の初め頃、奈良の東大寺や興福寺で学んだ僧・徳一によって勝常寺や恵日寺など多くの寺院が開かれ、仏教文化が会津地方に広められました。その中でも特に恵日寺が大きな力を持つようになりました。

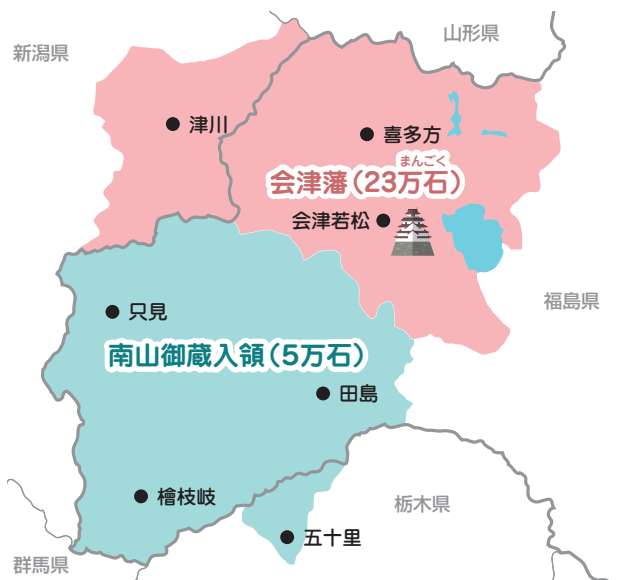
こうして会津地方は、東北地方でいち早く仏教文化が栄えた地として、奈良・京都・鎌倉・平泉などと共に仏教の栄えた地域のひとつに数えられました。

武士の時代

武士による支配

恵日寺の力がおとろえると、会津地方は武士による支配が始まりました。葦名氏に始まり、蒲生氏、上杉氏、加藤氏と支配がうつり、江戸時代の大部分は、保科家から姓を改めた会津松平家が治めました。

江戸時代には、現在の会津地方と新潟県・栃木県の一部という広大な領地を治めていました。その半分ほどは「南山御蔵入領」と呼ばれる幕府直轄領で、現在の南会津郡全域と大沼郡の大半、柳津町の一部でした。



ならぬものはならぬものです



▲ 会津藩校日新館（会津若松市） MAP D-1 最寄駅：会津若松

上級藩士の6歳～9歳の子ども達は、当時の学校である会津藩校日新館に通い、地域ごとに「什」というグループを作り一緒に勉強や遊びをしていました。この「什」には、「什の掟」というルールがあり、「ならぬことは、ならぬものです」と教えていました。

現在でも会津若松市内の小学校では什の掟をもとにした「あいづっこ宣言」を教えています。

あいづっこ宣言

- 一、人をいたわります
 - 二、ありがとうごめんなさいを言います
 - 三、がまんをします
 - 四、卑怯なふるまいをしません
 - 五、会津を誇り年上を敬います
 - 六、夢に向かってがんばります
- やっちはならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです

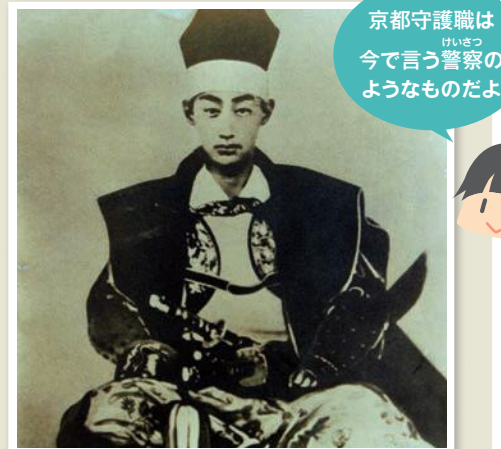
戊辰戦争



若松城 天守閣 東側（会津若松市教育委員会 提供）▲

新しい世の中を作ろうとする新政府軍と、幕府中心の世の中を守り通そうとした旧幕府軍の戦いが戊辰戦争です。会津藩も旧幕府軍側として激しい戦いを繰り広げ、会津でも戦いが行われました。

会津藩は、1ヶ月におよぶ若松城（鶴ヶ城）での戦いに耐えましたが、力に勝る新政府軍に敗れ、1868年（明治元年）旧暦9月22日に降伏しました。



京都守護職は今で言う警察のようなものだよ

松平 容保

会津藩の9代藩主です。1862年（文久2年）、徳川幕府の命令により京都守護職になり、京都の治安を守るために力を尽くしました。しかし、戊辰戦争で降伏した後、日光東照宮の宮司などをつとめました。